

研究主題 ふるさとに学び 心豊かに生きる子どもの育成
～地域の伝統・文化を取り入れた授業づくりを通して～
H22・23年度国立教育政策研究所「伝統文化教育実践研究」指定

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 地域の伝統・文化を取り入れる学習に関する理論研究，臨地研修と資料収集
- イ 伝統・文化を取り入れた学習に関する年間指導計画の作成，実践と検証
- ウ 仮説検証に向けた児童の意識調査の実施（7月・2月実施）
- エ 伝統・文化に関する学校教育環境の整備

(2) 研究の方法

- ア 全体会及び3（低・中・高）部会により，地域素材や伝統・文化を取り入れる指導の工夫についての研究を行う
- イ 地域の伝統・文化に関する題材を洗い出し，教材の開発と教育課程への位置づけを行う
- ウ 研究授業（2本）と，全学年において授業実践を行う
- エ 学校教育全体を通して，地域の伝統・文化を尊重する教育活動推進への環境づくりを進める

2 研究実践

(1) 理論研究

- ア 伝統・文化を尊重する教育に関する学習会（6月）
指導 義務教育課指導主事 薬袋 貴 先生
指導 峡東教育事務所 主幹指導主事 原 喜雄 先生
- イ 牧一小地区の伝統・文化に関する講演会（7月）講師 歴史学者 大村和夫氏
- ウ 臨地研修「室伏うちはやし」学習会（8月）講師 保存会会長 三枝正文氏

(2) 研究授業及び授業実践

- ア 第6学年 音楽科「地域の伝統音楽に親しもう
～うちはやしの曲想に合った表現を工夫する活動～」授業者 廣瀬敦子 教諭
指導 義務教育課指導主事 薬袋 貴 先生
- イ 第5学年 総合「見つめよう牧丘の環境・産業」 授業者 新海直仁 教諭
指導 義務教育課 指導主事 嶋崎 修 先生
- ウ 第4学年 社会科「昔のくらしとまちづくり」 授業者 中村亜矢子教諭
- エ 第3学年 総合 「レッツゴー！昔探検」 授業者 岩下 城 教諭

- オ 第2学年 生活科「みんなあつまれ やっほいほい」授業者 堀内美紀 教諭
カ 第1学年 生活科「ふゆとあそぼう ～むかしのあそびをたのしもう～」
授業者 丸山英子 教諭

(3) 伝統・文化を尊重する心を培うための学習環境づくり

- ア 「わらべうた」「うちはやし(6年生)」などの伝統音楽を取り入れた音楽集会
イ 郷土料理等の取り入れや、保護者への啓発活動等、食教育との有機的な連携
ウ 地域の伝統文化を紹介した写真資料を「伝統・文化紹介コーナー」として設置
エ 和太鼓団体を招いた「全校親子邦楽観賞会」や「親子箸作り体験教室」実施等、
多面的な伝統・文化教育へのアプローチ

II 研究の成果

1 成果

- (1) 理論研究，地域素材の洗い出し，臨地研修等によって，資料の収集と教材開発を行い，「伝統・文化に関する学習の年間指導計画」を作成した。これを基に，全学年において伝統・文化に関する授業実践を行うことができた。
- (2) 地域ゲストティーチャーの効果的な活用や，「直接体験」を重視した単元構成によって，学習にリアリティを持たせることができたと共に，地域との連携の深化を図ることができた。
- (3) 児童意識調査（7月と2月）から，①「牧丘の伝統・文化に関する知識〈全校〉」47%→89% ②「牧一小地区への愛着や好感〈全校〉」77%→82%など，地域や伝統・文化に対する児童の関心や知識に変容を見ることができた。学校教育全体を通して，地域の伝統・文化を尊重する教育活動推進への環境づくりを進めることができた。

2 課題

- (1) 「豊かな心」と「確かな学力」を，学校教育全体を通してバランスよく育成するための指導のあり方について，さらに多角的な視点を持ちながら教育活動を見つめ直すことによって学習内容や手立ての探究を進めていくことが必要である。
- (2) 伝統・文化に関する教育の年間指導計画の見直しを行い，付加修正しながら整合性を高め具体化を図る。
- (3) 各学年の学習内容を各教科の特性や児童の実態に合わせて整理し，授業実践により検証を進める。
- (4) 地域人材リストを整備するとともに，保護者や地域への啓発活動によって地域との連携を図る。

III 成果物

- 1 伝統・文化に関する学習の各学年年間指導計画
- 2 伝統・文化に関する児童の意識調査結果
- 3 「牧一小地区の主な年中行事や祭りごよみ」一覧 (研究主任 新海直仁)